

アンドレ・モーロワ著「初めに行動があった」岩波新書、岩波書店 1967年4月20日刊を読む(1)

方法と行動

1. 古典的思想は因果関係に基づく決定論をあまりにも重視していた。人びとは歴史的事実から歴史を演繹えんえきしていたが、歴史家は事実をでっち上げていた。人びとは染色体によって人それぞれの性質が否応なしに決定されると断じていたが、染色体はわれわれ各人に分け与えられている一組のトランプ札にすぎない。トランプ札を受け取っても、トランプをするという仕事が残っている。人間の中での最もすぐれた人びとは自分の性質を決定している因子をも克服するものである。そうした人びとは、ある程度、そして世界の緒法則を考慮に入れながら、未来をつくってゆく。近代人はこう自問すべき時が来ている、(お前は未来がどんなものであってほしいと望むのか?)と。もはや過去から未来を引き出すだけでなく、問題が解決されたと仮定して、こういわなければならない、(もしわれわれがこれこれの未来を望むならば、われわれは何をなすべきか?)と。要するに、未来を頭におくだけではもはや充分でない、(頭を未来におかなければならない)(モリス・パボン、『新しい方法叙説のために』)。一つの新語をつくるのが許されるならば、私はいおう。Extrapoler(断片的データから一つの結論を引き出す)代わりに、一つの選ばれた未来から出発しようではないか、そして(retropoler)(その未来から逆に一つの結論を引き出)そうと試みようではないか。
2. これには反対もあるであろう。——われわれが見もしない遠い未来のためになぜ仕事をし計画を立てるのか?その答は、われわれは未来を一部分は見るだろうということである。われわれの(死)後に起こるだろうことについていえば、それを想像するのは結構なことであろう。問題は過去についての教育を否認することではなく、未来についての前向きの考えをそれにつけ加えることである。われわれは一つの深刻な変革の時代に生きている。この変革は第16世紀のそれよりもさらに驚くべきものがある。すべて激変はいたましいものであり、われわれは、シシュフォスのように、われわれの重荷を百度も山の上まわし続けなければならぬ。しかしわれわれは地獄にいるのではない。友なる地球の上に生きている。この地球を改善するのはわれわれの義務である。知性の賭けの後に信念の行為がつづくべきである、いやむしろ知性の賭けに信念の行為が結びつくべきである。行動人の思想はデカルト的分析の性質と同時にパスカルの賭けの性質を持っているべきである。人間は、現代では、働きざかりに達している。人間がその運命を引き受け、自己の新しい力を判断し、そしてそれらの力を制御せんことを。こんにち不可能なことも明日は可能なこととなるかも知れない。(人は意欲することができるということを信じなければならない)、とデカルトはいった。

3. もちろん、危険を取り除くためには意欲するだけでは充分でない。人間の生涯は一つの大きな冒険である。誰でも一つの企業や一つの国を指導しようとする者は冒険家となる。いろいろな自然力は、そのままほったらかされると、無秩序な世界を産むであろう。技術の進歩も、もし一つの意志がそれを導かなかつたら、一つの都市を、非常に短い時間内に、車と、飛行機と、騒音と、よごと、醜さとから成る混乱におとし入れるであろう。知識の多種多様さは頭脳の記憶力の限度を越えている。授業要目の無秩序は若い人たちの頭を混乱させる。しかしこれらの害悪は妨げないものではない。ほったらかされた宇宙はますます混乱した緒状態へとおもむき、放置された自然はすべての耕地とすべての庭園とを枯らすとしても、よい庭師となることはまだ可能である。文明は *antihazard* (反偶然) である (ピエール・マセ)。

4. われわれは、本書の冒頭で、あらゆる行動は行動の有効性に対する信念をぜひとも必要とするといっておいた。もしもただ一つの未来だけしか可能でないとしたら、行動はむなしなものであろう。しかし過去は一つであるが、未来は多種多様である。(明日という日はかくれた力なのである) (ポール・ヴァレリ)。行動人はいくつもの可能なものの中から、自分が実現させたいと思う可能なものを選ぶ。そしてこの選択から、自分の現在の緒行動がどんなものであるべきかを演繹する。行動人は誤りを犯すこともある。(人間は今日、原因を蒔き——明日は神が結果を熟させる。) 時として政治家は、自分の選択の結果を前にして、いうであろう、(私はこんなことを望んではいなかったのに) と。しかし、ともすればまた、(未来を見つめることは彼を顛倒させる) (ガストン・ベルジェ)。自然な転落の流れ(フランスにおける出生率の低下——ヨーロッパの経済的破滅)は阻止され、それから逆の方向に向けられてきた。未来は常に予測できるものと予測できないものから成るであろう。果樹園に木を植えたり、都市を建設したり、(海の上を歩いたり、板を渡ったり)することは、いずれも賭けである。しかし近代の行動人はその決定を下すための諸要素に事欠かない賭博者である。そして行動の負けに賭けることは、それもまた賭けることであろう——無秩序に賭けることであろう。